

2.7 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について

問 25. 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下（令和2年4月7日～5月25日）及び解除後（令和2年5月26日以降）における生活行動について、項目ごとに最もあてはまるものを、宣言下と解除後でそれぞれ1つずつ選んでください。

下記7項目について、緊急事態宣言下と解除後、それぞれの頻度をたずねた。（調査期間：令和2(2020)年11月18日～12月25日）

「宣言下」では「全くない」と回答した人は「居酒屋や飲み屋等の利用」「旅行やレジャー等での外出」「趣味やサークル活動等での外出」の3項目で75%を超えて多く、「レストランや喫茶店等の外食の利用」、「同居家族以外の親族との接触」、「家族や親族以外の友人・知人との接触」では6割台であった。また、「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」においては、3.8%の人が「全くない」と回答している。

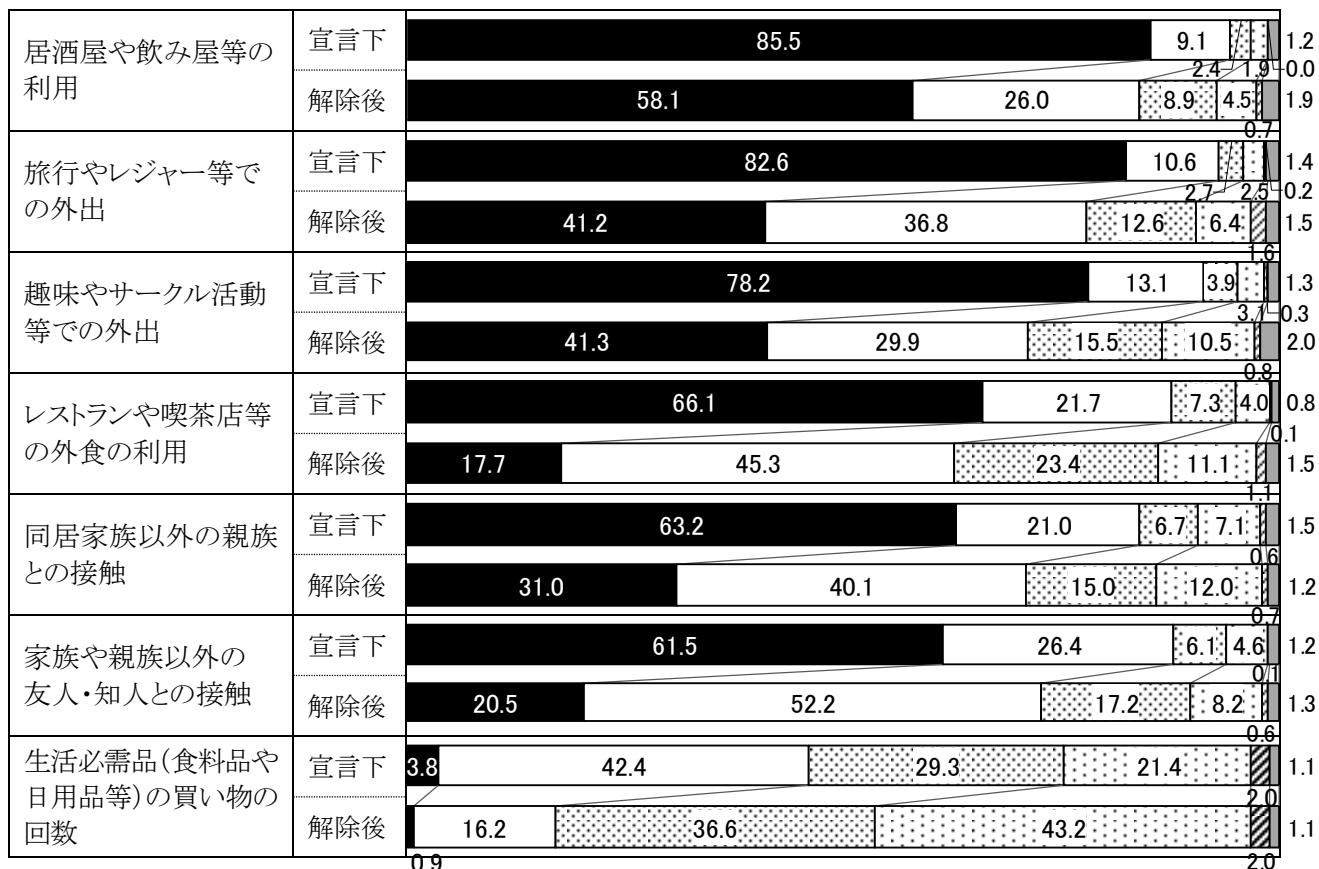
「解除後」では、すべての項目で「全くない」の割合が下がり、特に「旅行やレジャー等での外出」、「レストランや喫茶店等の外食の利用」、「家族や親族以外の友人・知人との接触」の3項目では宣言下から40ポイント以上の減少が見られたものの、「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」以外の項目では「全くない」と「日常の半分以下」の合計が6割～8割程度となるなど、引き続き自粛傾向がうかがえる。

【図表 145】 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について 宣言下／解除後

■ 全くない □ 日常の半分以下 ▨ 日常と比べやや減少 ▩ 日常と変わらない ▩ 日常より増えた ■ 無回答

(n=1,653)

(%)

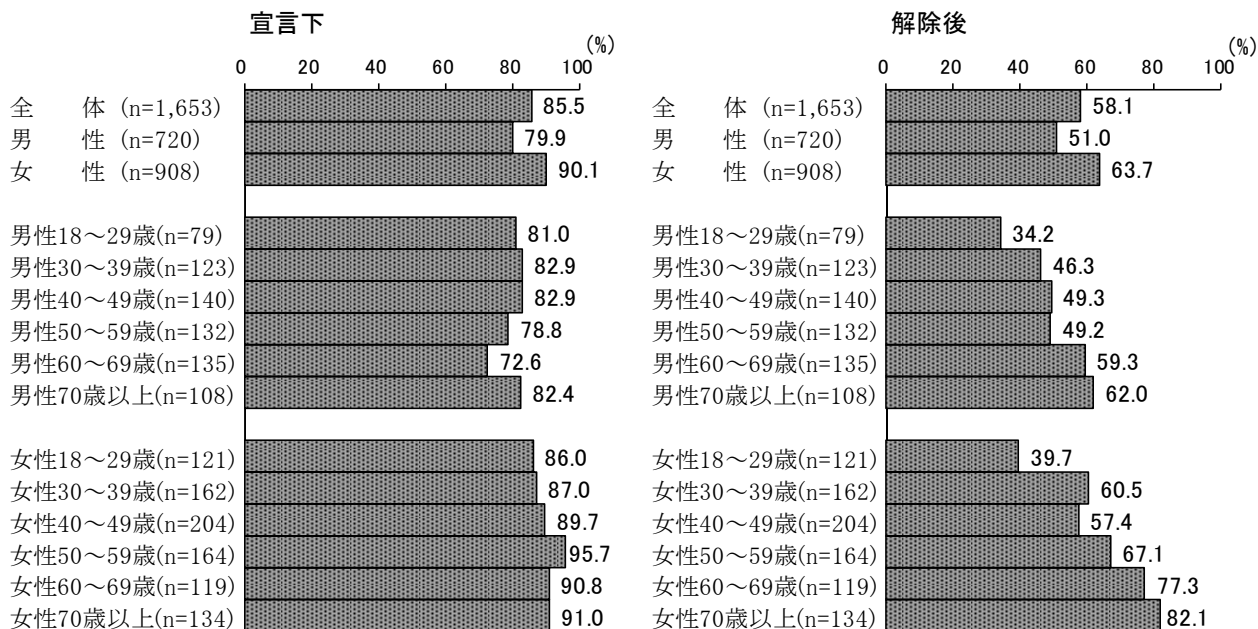


「全くない」と回答した人について性／年齢別に見ると、宣言下では「同居家族以外の親族との接触」は概ね年齢が低いほど多くなっており、特に男性でその傾向が顕著である。その他の項目については、性／年齢により傾向に大きな違いは見られなかった。

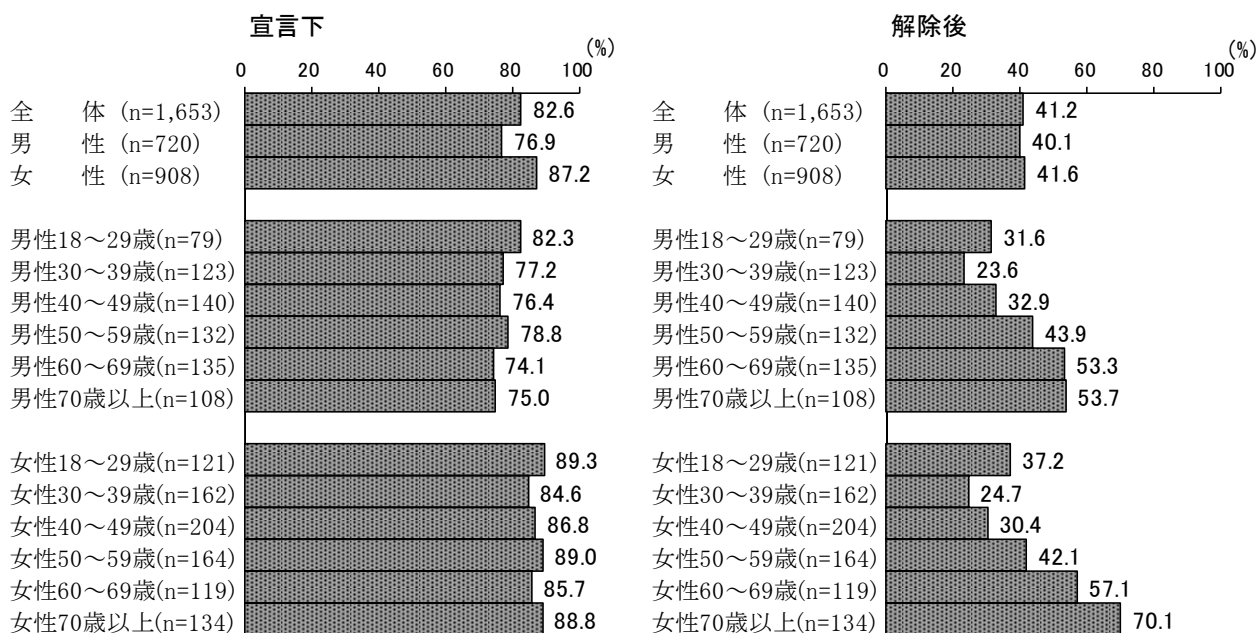
解除後では、「同居家族以外の親族との接触」と「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」を除いた項目で、「全くない」は概ね年齢が低いほど少なくなっている。また、男女ともに30歳代以下では、解除後に自粛を緩めている傾向が強いことがうかがえる。

【図表 146】新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（性／年齢別）

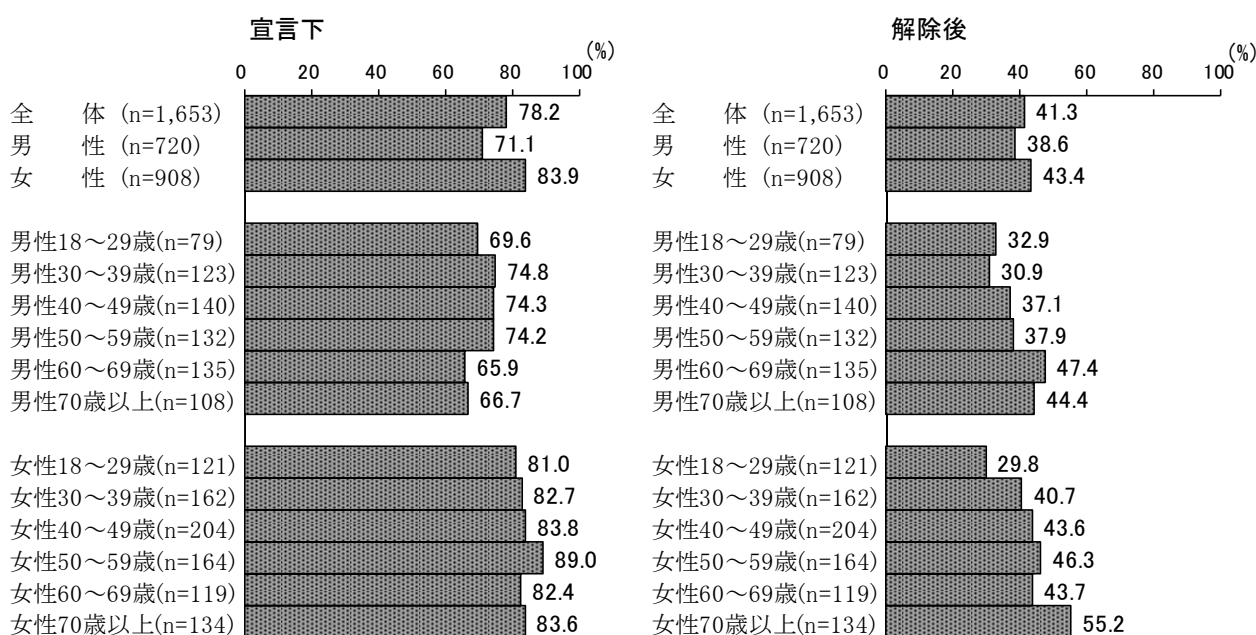
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



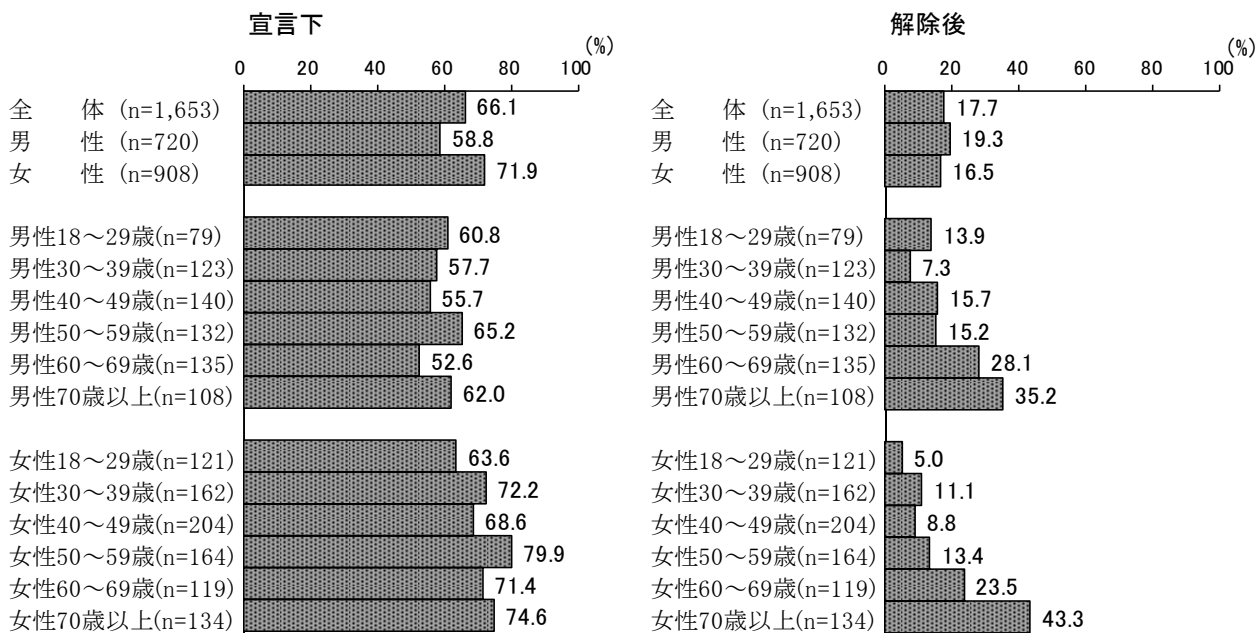
■ 旅行やレジャー等での外出



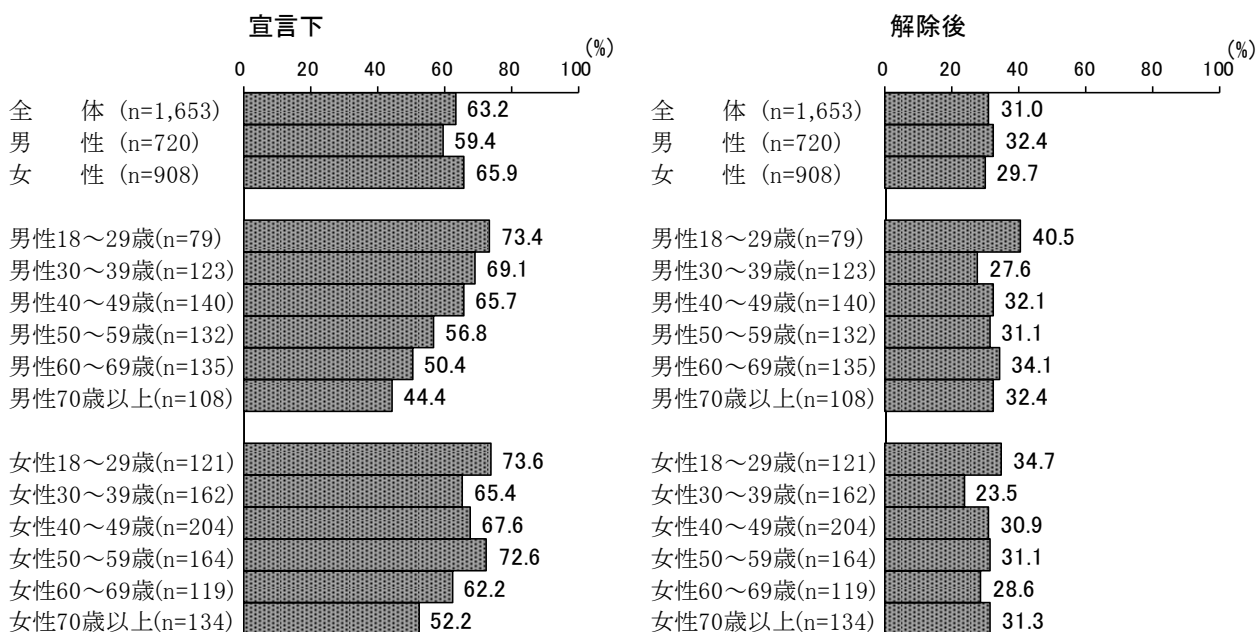
■ 趣味やサークル活動等での外出



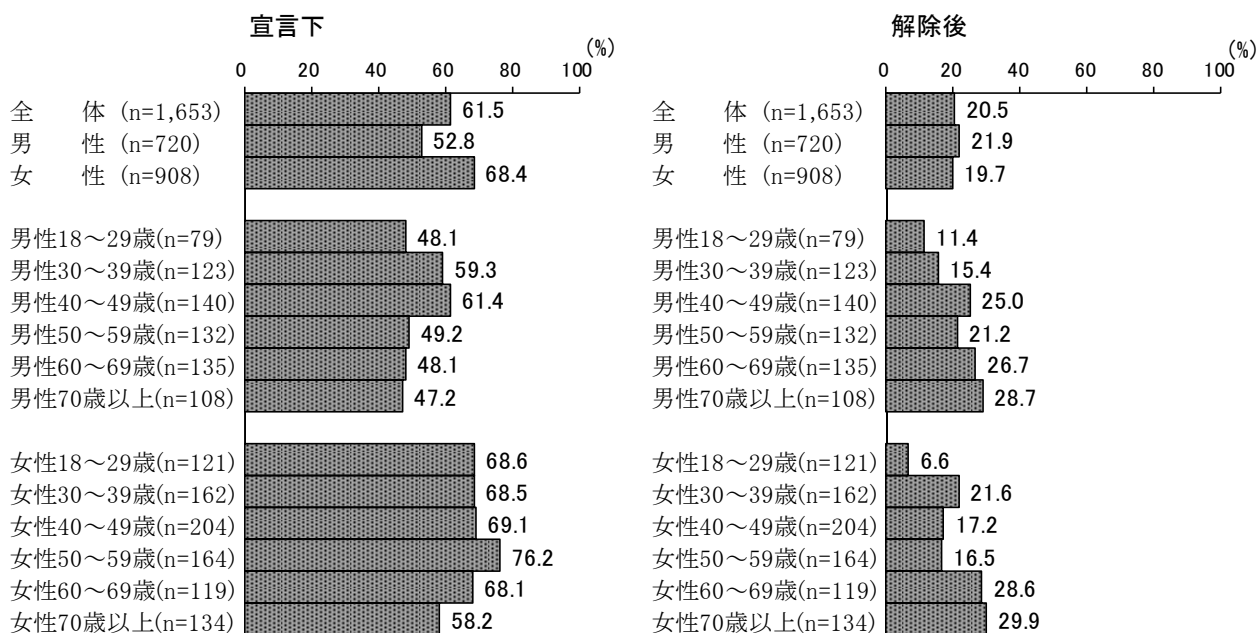
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



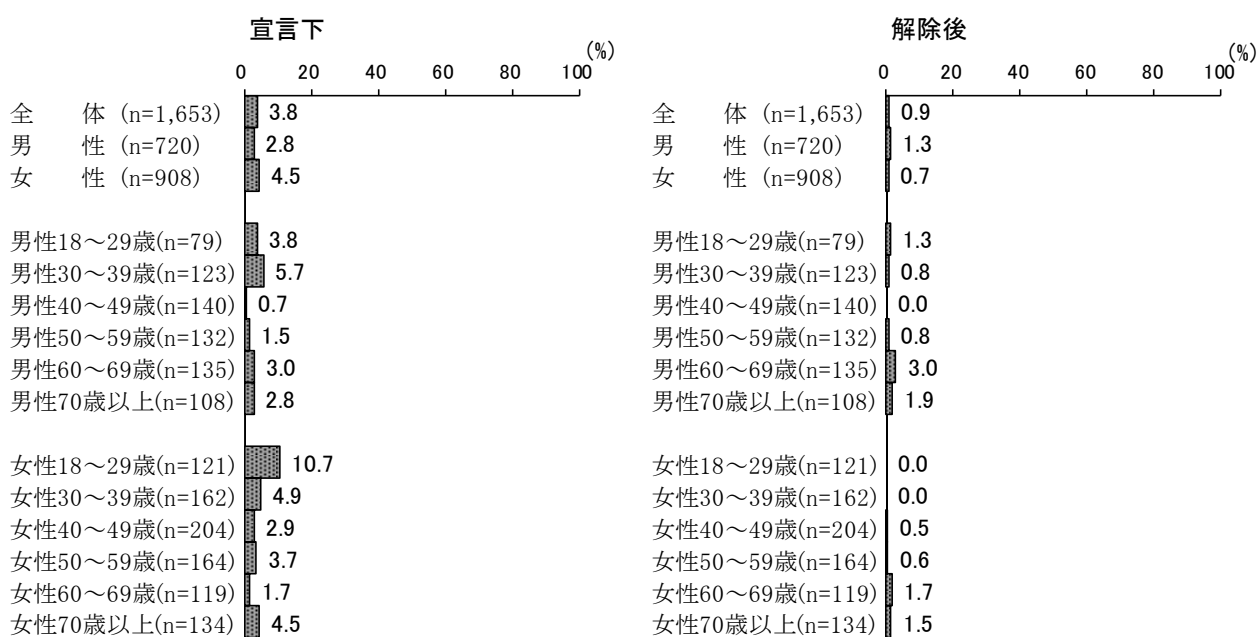
■ 同居家族以外の親族との接触



■ 家族や親族以外の友人・知人との接触



■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数

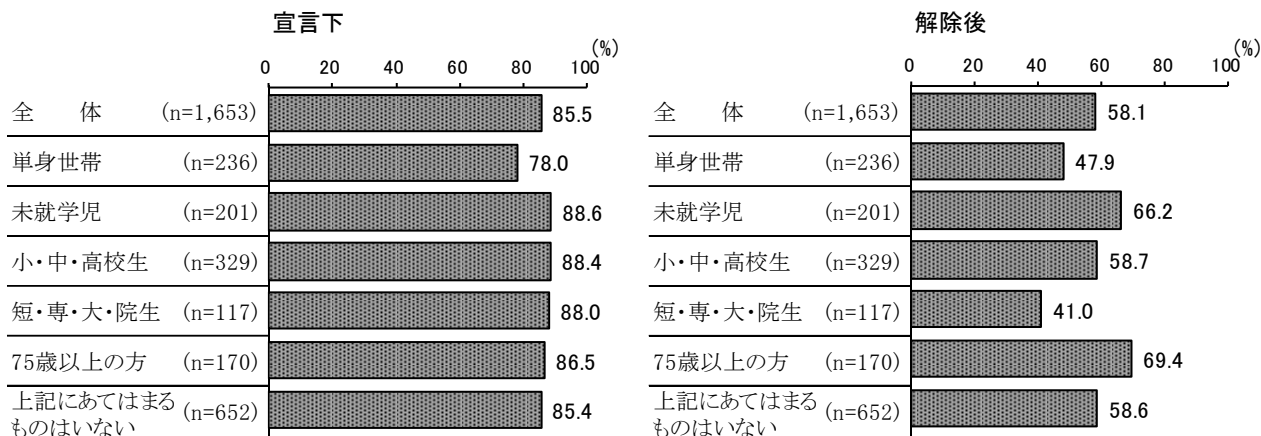


「全くない」と回答した人について同居者別に見ると、宣言下においては「同居家族以外の親族との接触」と「生活必需品（食料品や日用品等）の買い物の回数」を除いた項目で「単身世帯」の人が最も少ない。

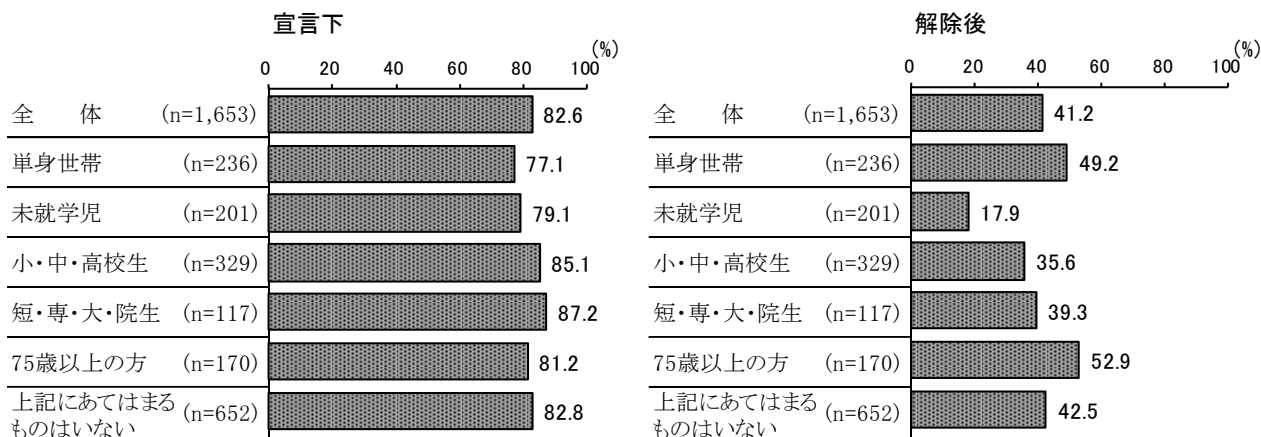
解除後においては、「居酒屋や飲み屋等の利用」、「趣味やサークル活動等での外出」では「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」のいる世帯で「全くない」が少ない。また、「旅行やレジャー等での外出」と「同居家族以外の親族との接触」では「未就学児」のいる世帯、「レストランや喫茶店等の外食の利用」では「未就学児」「小学生・中学生・高校生」「短大生・専門学校生・大学生・大学院生」のいる世帯で「全くない」が少なくなっている。

【図表 147】新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（同居者別）

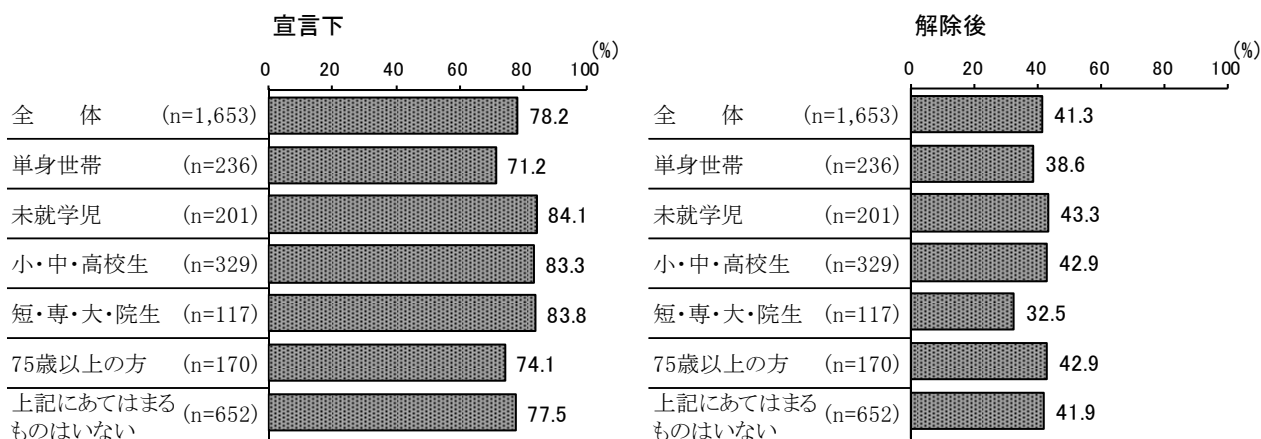
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



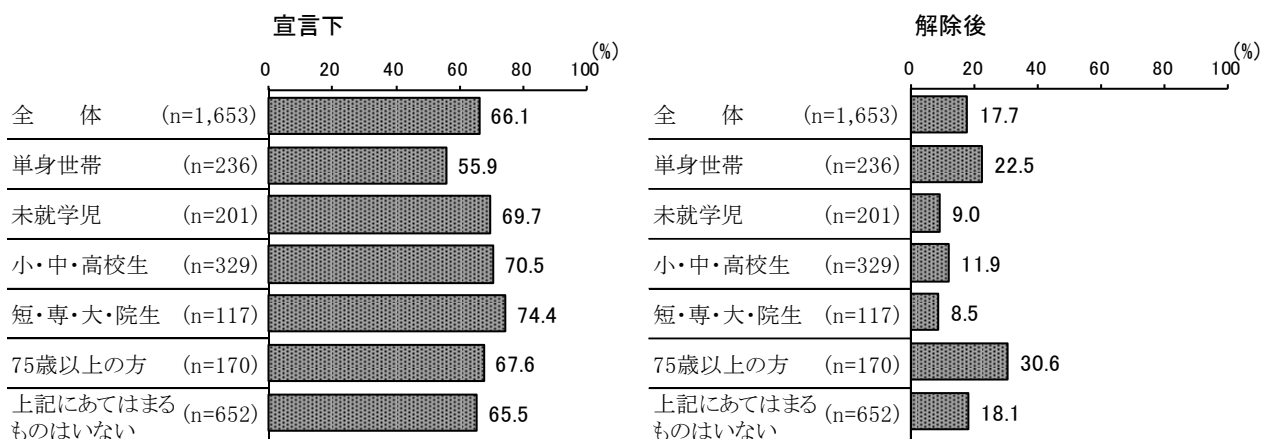
■ 旅行やレジャー等での外出



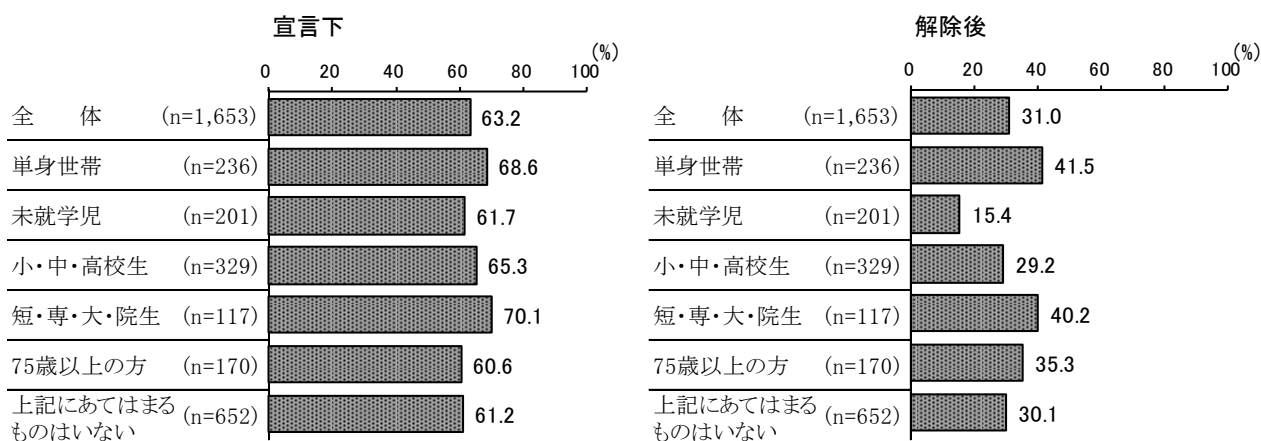
■ 趣味やサークル活動等での外出



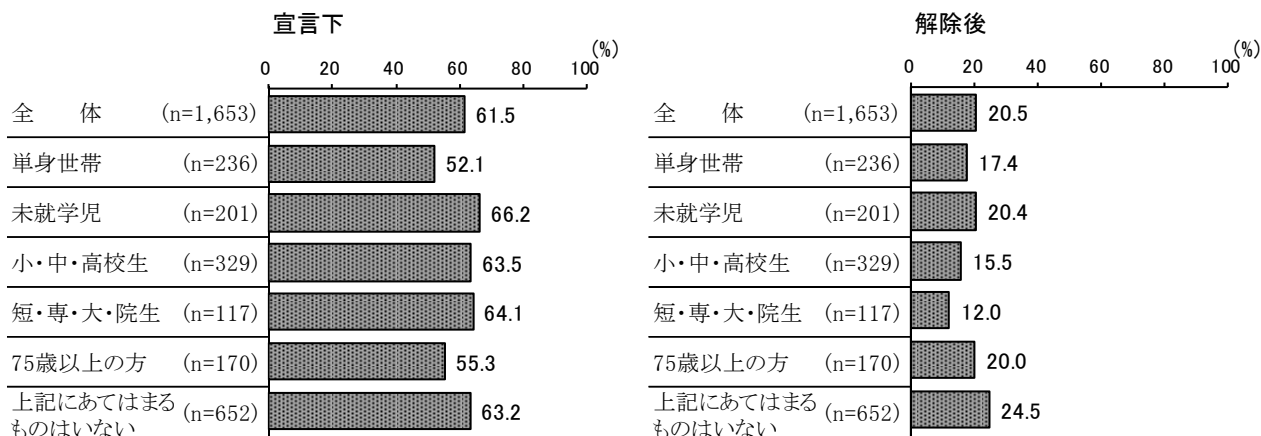
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



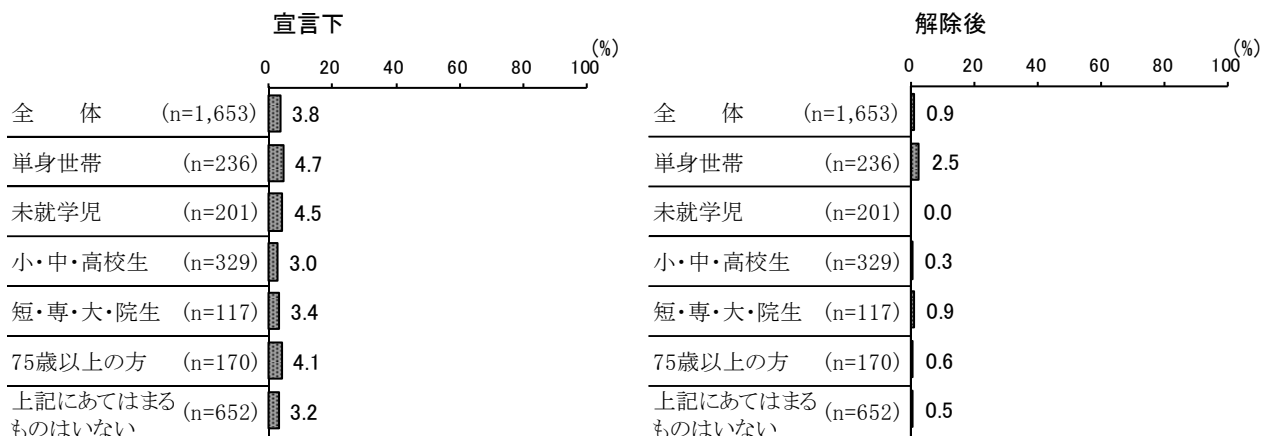
■ 同居家族以外の親族との接触



■ 家族や親族以外の友人・知人との接触



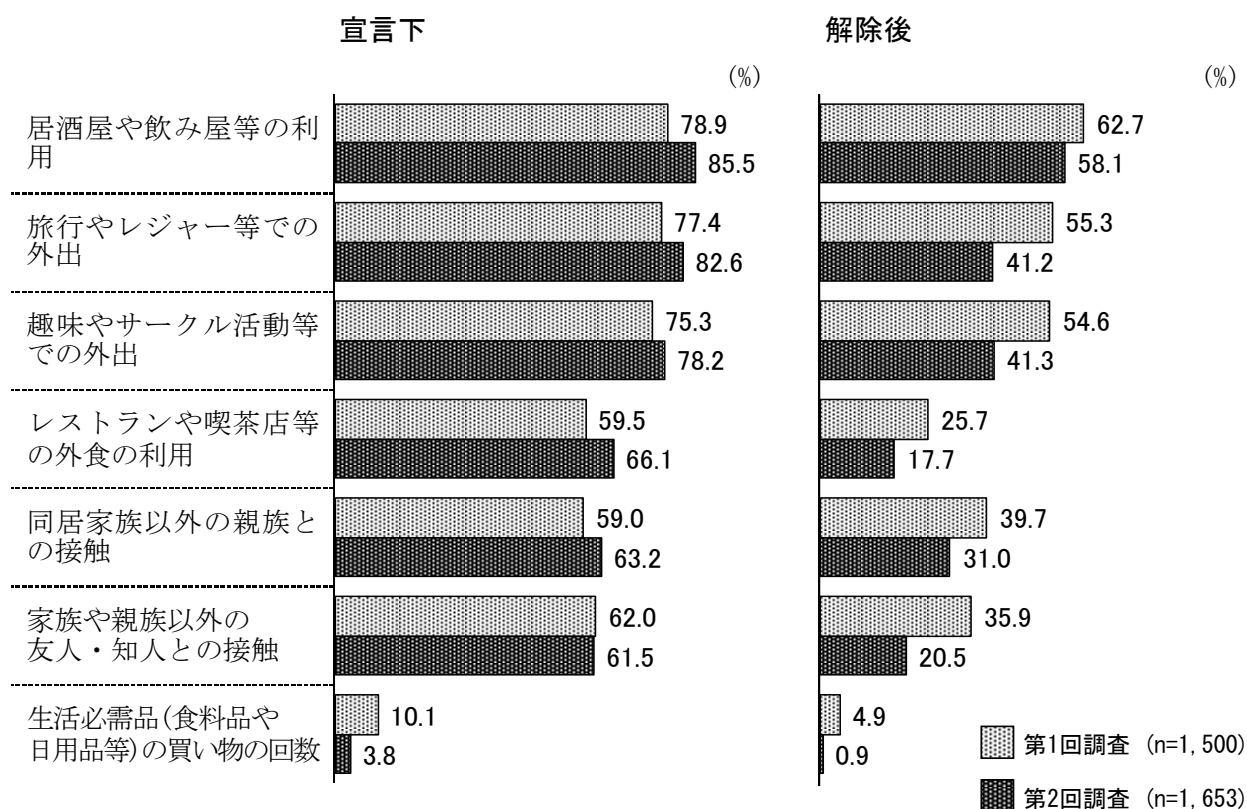
■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

令和2(2020)年9月にインターネット調査で実施した第1回調査と比較すると、「全くない」は宣言下では「家族や親族以外の友人・知人との接触」と「生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数」を除いた5項目で第2回調査の方が多くなっているが、解除後ではすべての項目で第2回調査の方が少なくなっており、2020年9月に実施した第1回調査時よりも同年11月～12月に郵送調査で実施した第2回調査の方が自粛を緩めている傾向が強いことがうかがえる。

【図表 148】新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（第1回調査との比較）

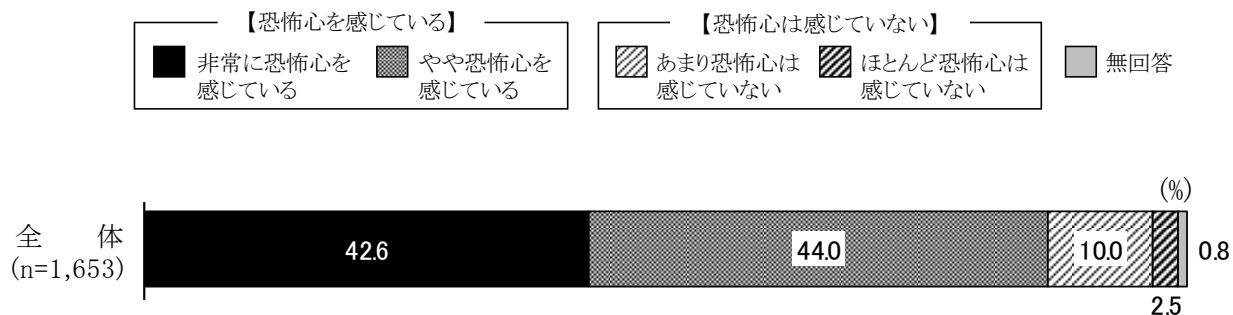


(2) 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心

問 26. あなたは、あなた自身が新型コロナウイルス感染症に感染することに、どの程度恐怖心を感じられていますか。

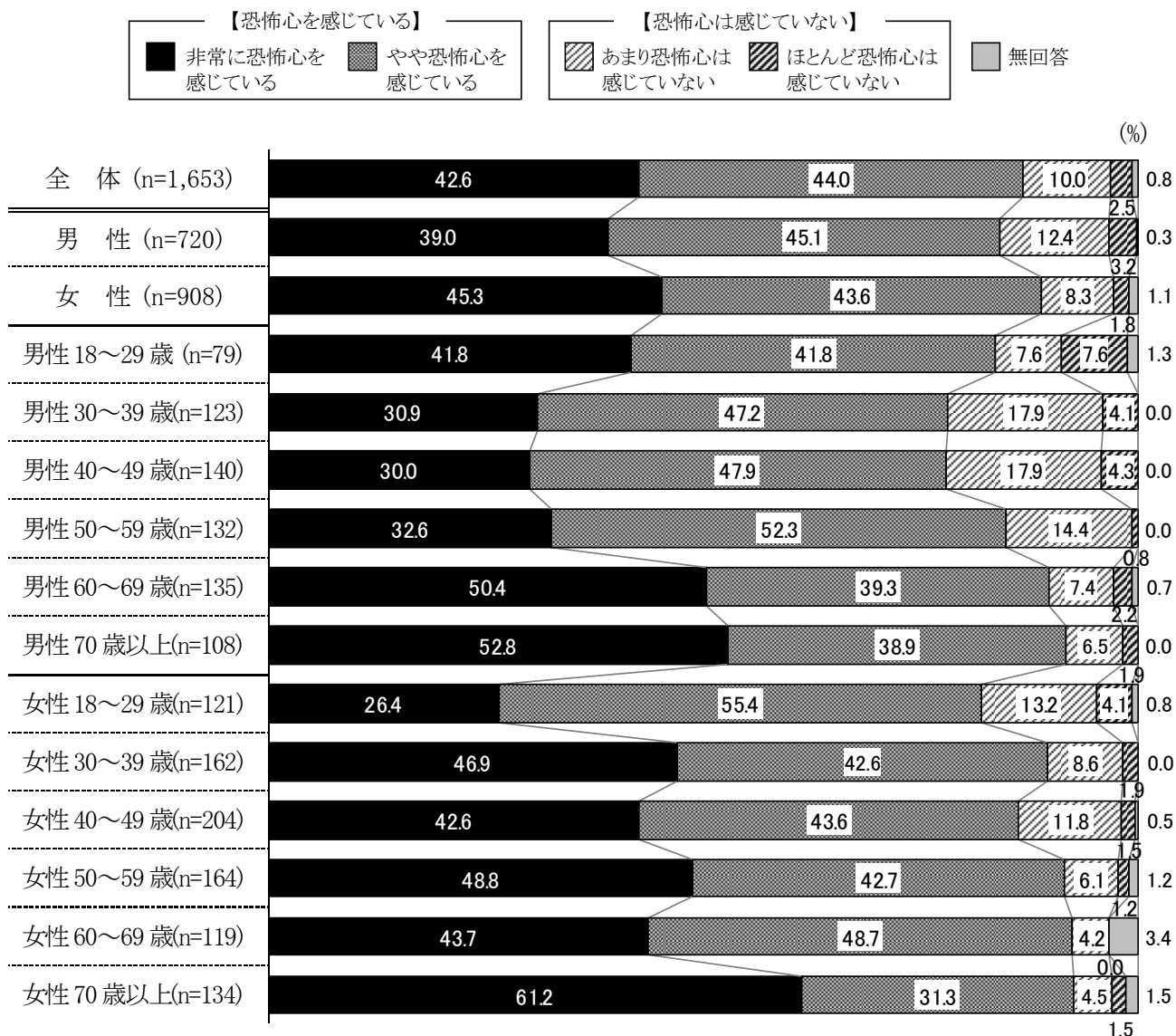
「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は86.6%、「あまり恐怖心は感じていない」と「ほとんど恐怖心は感じていない」を合計した【恐怖心は感じていない】は12.6%であった。

【図表 149】 新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心



性／年齢別に見ると、男性よりも女性の方が【恐怖心を感じている】が多くなっている（男性：84.2%、女性：88.9%）。また、【恐怖心を感じている】は男性の18～29歳を除き、概ね年齢が高くなるほど多く、男性では70歳以上、女性では60歳代以上で9割を超えている。

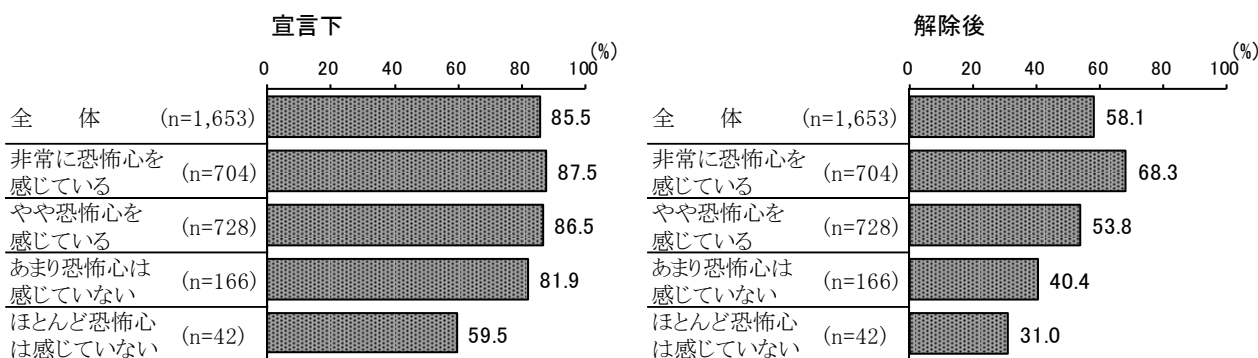
【図表 150】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心（性／年齢別）



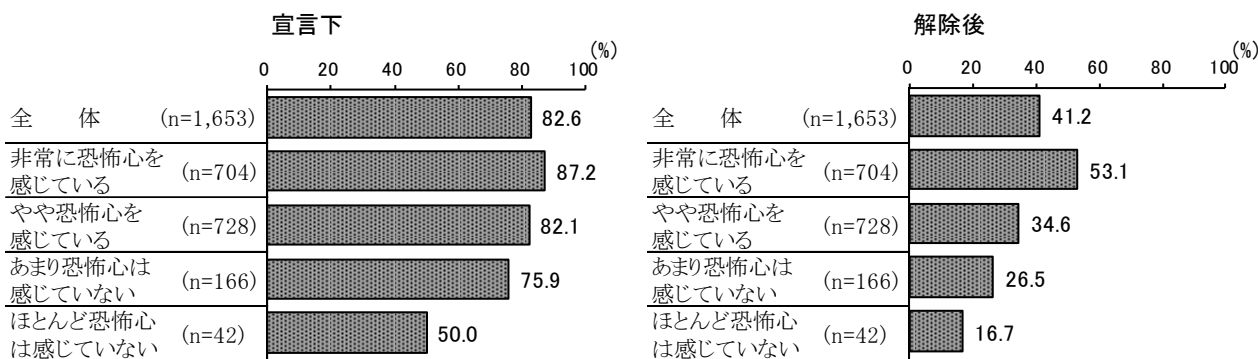
問25の「新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について」を「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」の回答別に見ると、すべての項目で「全くない」の回答割合は「非常に恐怖心を感じている」人で最も高く、恐怖心を強く感じている人ほど自粛の傾向が強いことがうかがえる。

【図表 151】 新型コロナウイルスの緊急事態宣言下及び解除後における生活行動について（「全くない」回答者）
（「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」回答別）

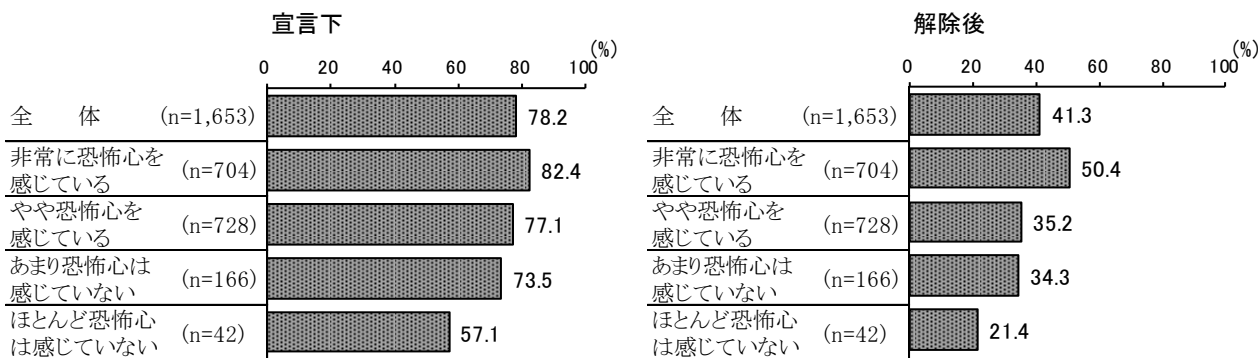
■ 居酒屋や飲み屋等の利用



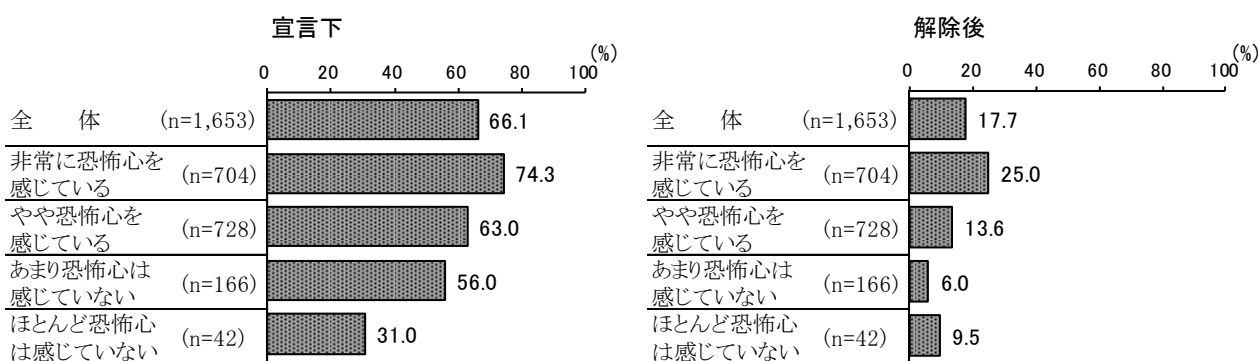
■ 旅行やレジャー等での外出



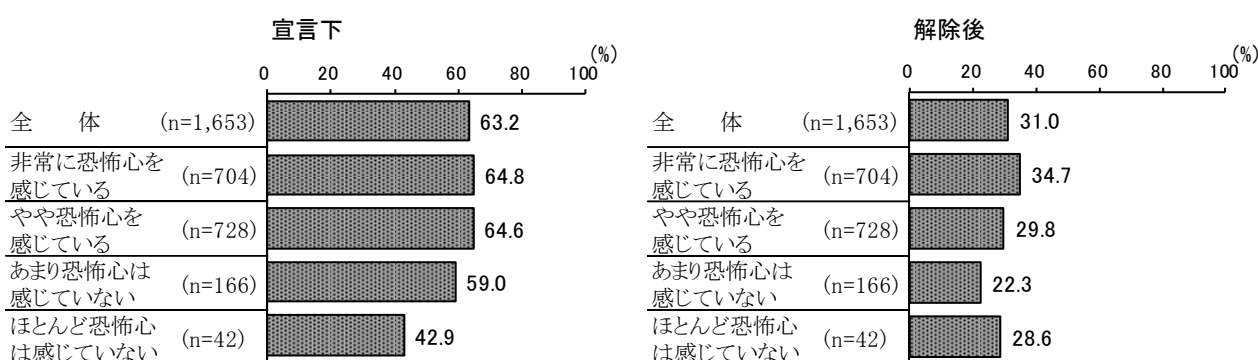
■ 趣味やサークル活動等での外出



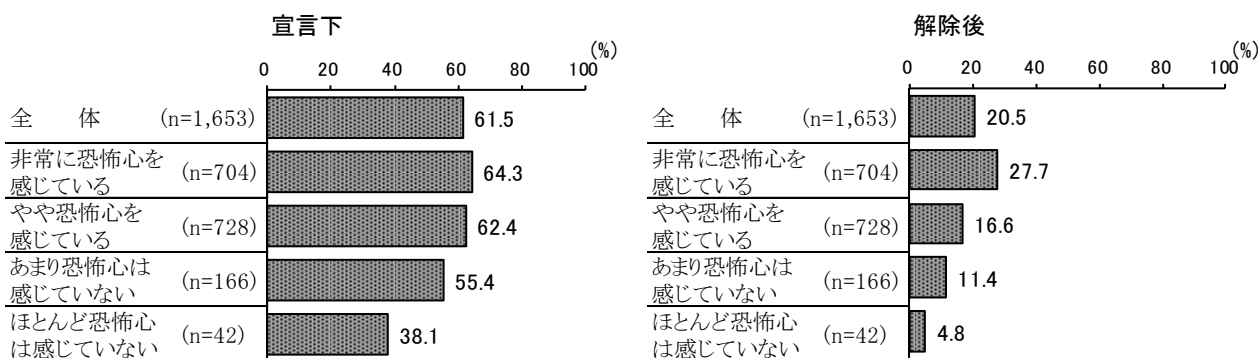
■ レストランや喫茶店等の外食の利用



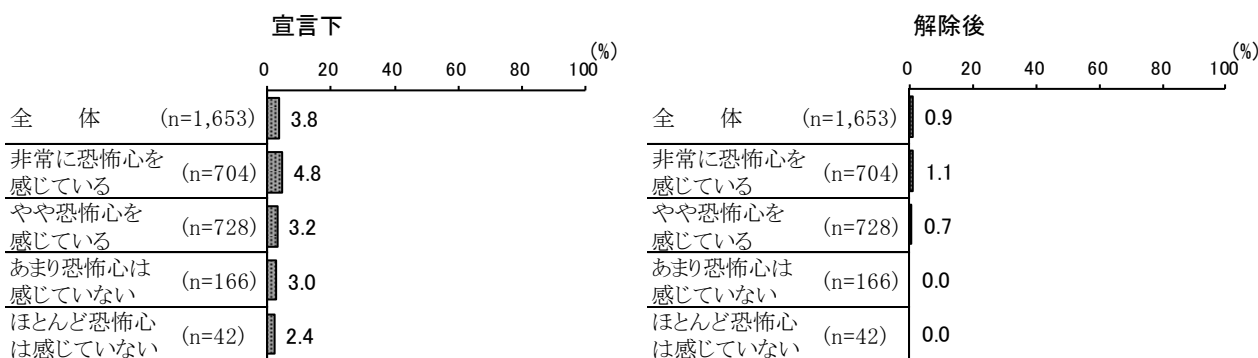
■ 同居家族以外の親族との接触



■ 家族や親族以外の友人・知人との接触

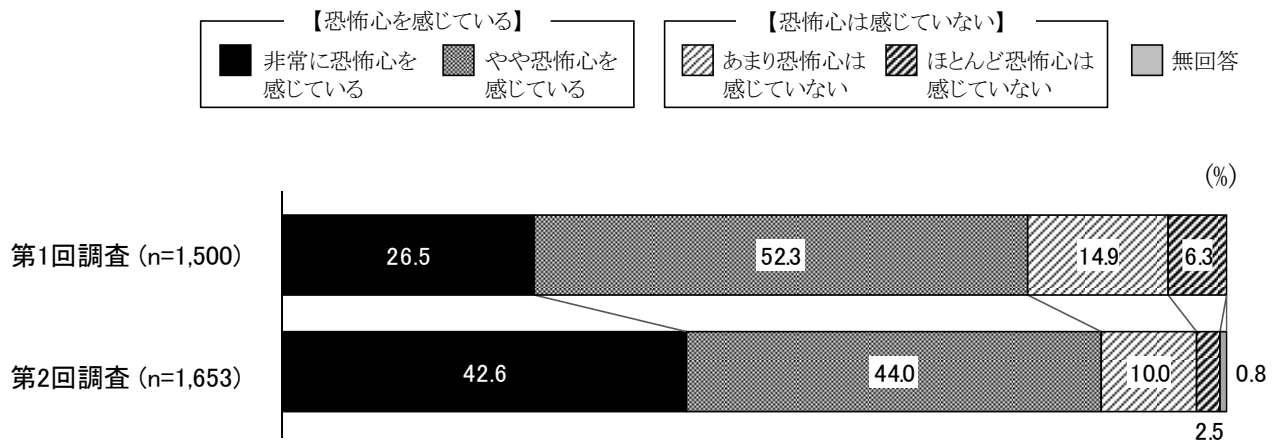


■ 生活必需品(食料品や日用品等)の買い物の回数



第1回調査と比較すると、「非常に恐怖心を感じている」と「やや恐怖心を感じている」を合計した【恐怖心を感じている】は第1回調査の78.8%から86.6%と7.8ポイント増加しており、特に「非常に恐怖心を感じている」だけで見ると、第1回調査の26.5%から42.6%と16.1ポイント増加している。

【図表 152】新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心
(第1回調査との比較)

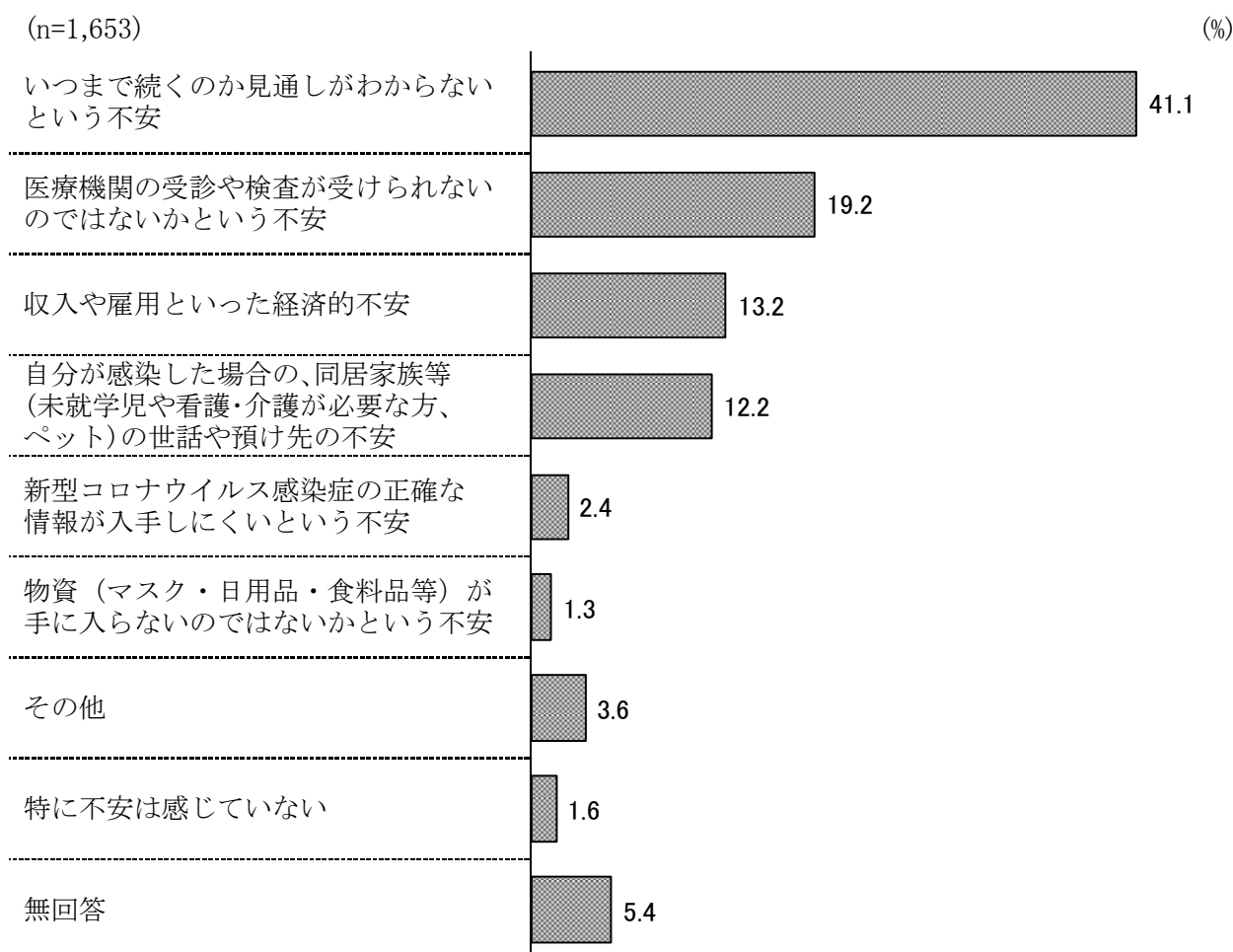


(3) 新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安

問 27. あなたは、自分やご家族が感染すること以外に、どのような不安を感じていますか。最も不安に感じている項目を1つ選んでください。

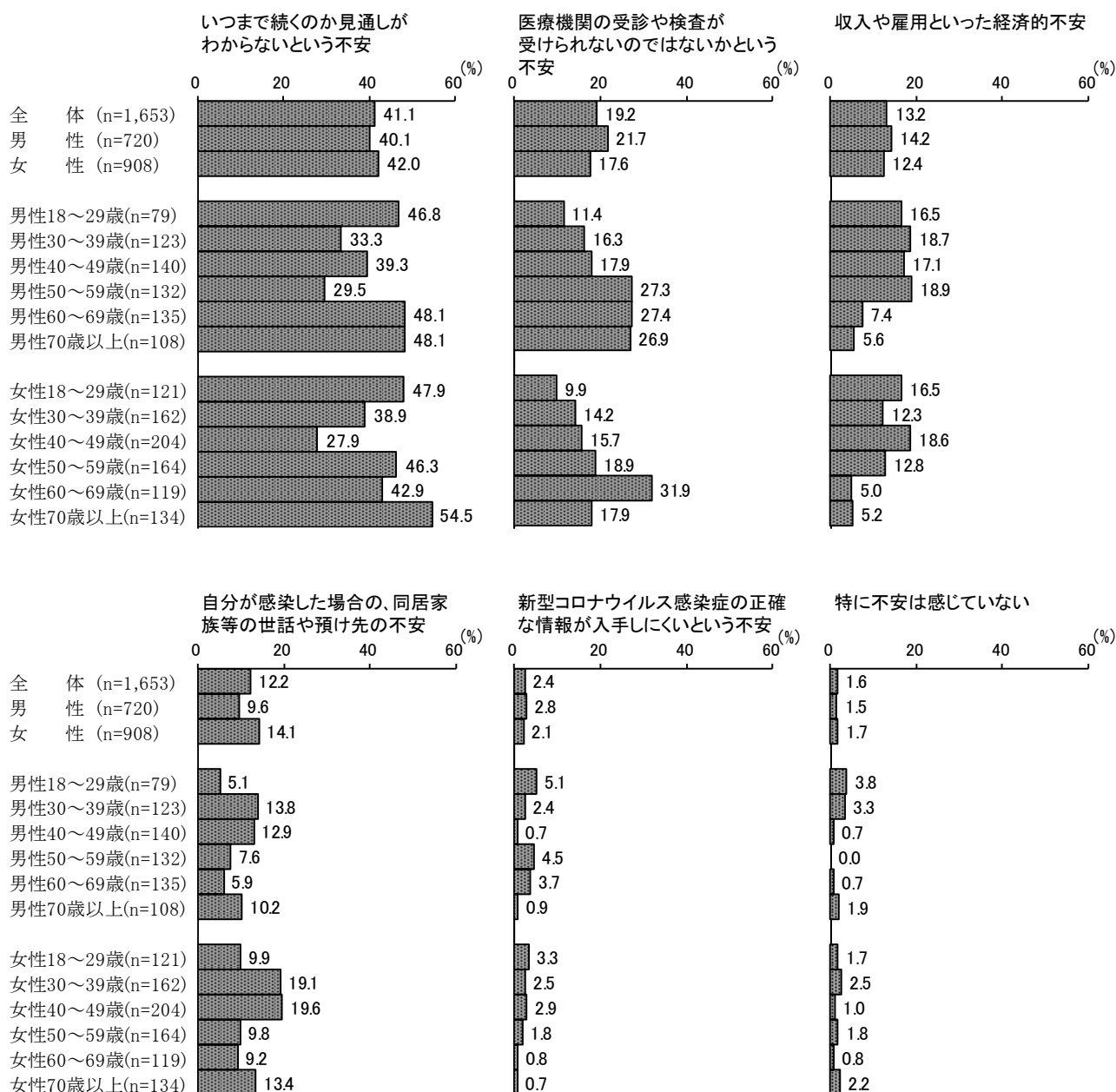
「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」(41.1%)が最も多く、次いで「医療機関の受診や検査が受けられないのではないかと不安」(19.2%)「収入や雇用といった経済的不安」(13.2%)と続いている。また、「特に不安は感じていない」は1.6%であった。

【図表 153】 新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安



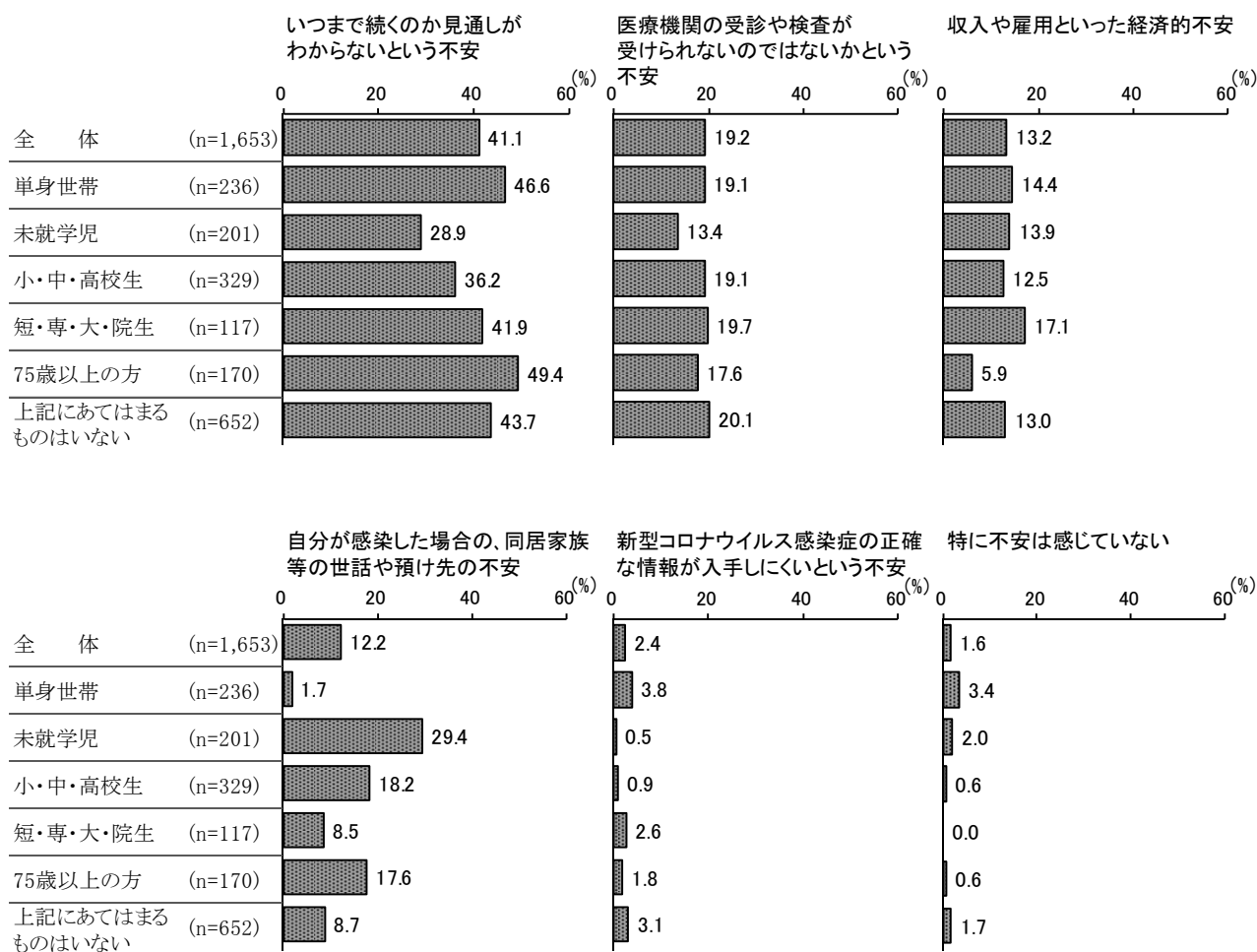
性／年齢別に見ると、「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」は男性では、18～29歳と60歳代以上、女性では18～29歳と70歳以上が多い。「医療機関の受診や検査が受けられないのではないかという不安」は概ね年齢が高くなるほど多く、「収入や雇用といった経済的不安」は概ね年齢が高くなるほど少なくなっている。「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」は男女ともに30歳代～40歳代で多くなっている。

【図表 154】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 《上位6項目》
(性／年齢別)



同居者別に見ると、「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」では「単身世帯」と「75歳以上の方」がいる世帯で4割台後半と多くなっている。「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」では「未就学児」のいる世帯が29.4%と最も多く、次いで「小学生・中学生・高校生」のいる世帯が18.2%、「75歳以上の方」のいる世帯が17.6%と続いている。

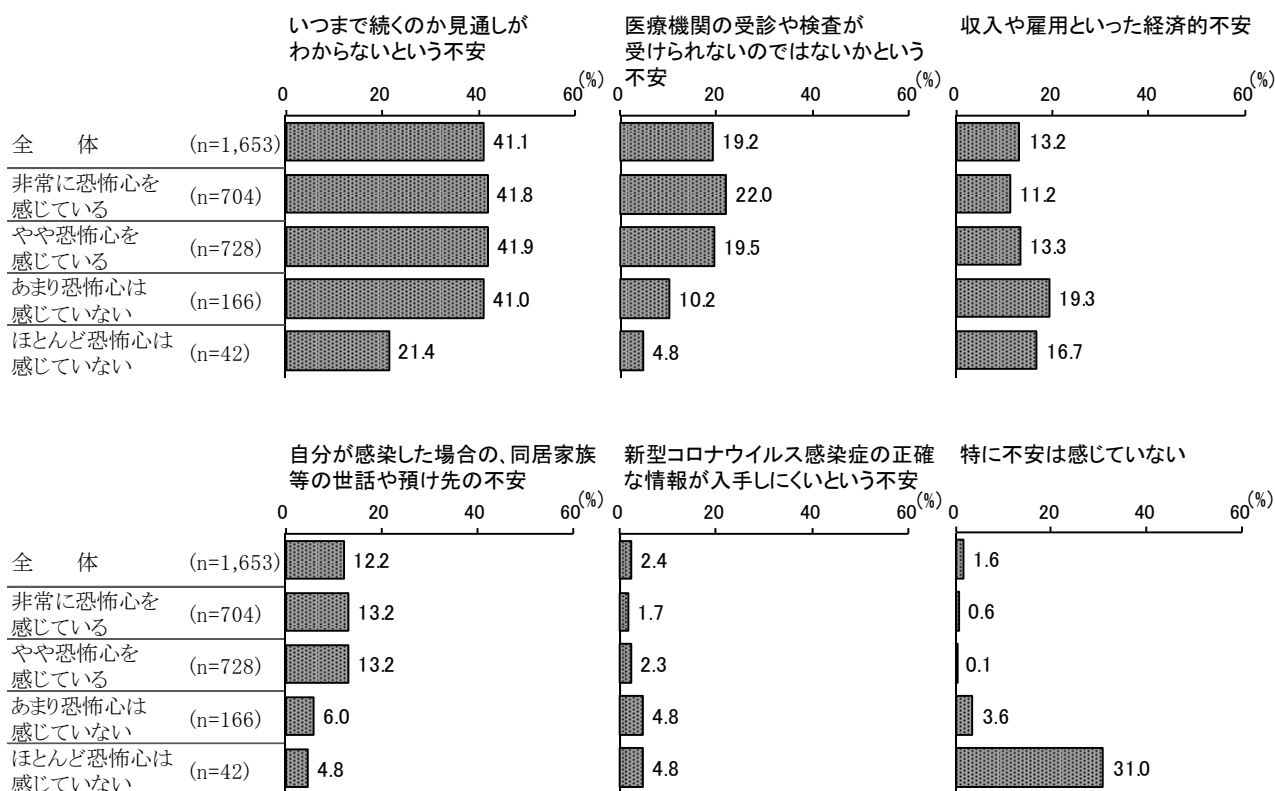
【図表 155】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 《上位6項目》
(同居者別)



※分析軸に使用した「同居状況」の設問は複数回答であるため、各項目の件数の合計は全体の件数と一致しない。

問26の「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」の回答別に見ると、「非常に恐怖心を感じている」「やや恐怖心を感じている」人は、「医療機関の受診や検査が受けられないのではないかという不安」、「自分が感染した場合の、同居家族等（未就学児や看護・介護が必要な方、ペット）の世話や預け先の不安」の2項目で多くなっている。一方で、「あまり恐怖心を感じていない」「ほとんど恐怖心を感じていない」人は、「収入や雇用といった経済的不安」、「新型コロナウイルス感染症の正確な情報が入手しにくいという不安」でやや多い傾向がある。「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」は「ほとんど恐怖心を感じていない」人では少ないが、それ以外では恐怖心にかかわらず、同程度であった。

【図表 156】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安 《上位6項目》
 （「新型コロナウイルス感染症に感染することに対する恐怖心」回答別）



第1回調査と比較すると、「いつまで続くのか見通しがわからないという不安」が最も多い点は同様であるが、第1回調査では4番目に多かった「医療機関の受診や検査が受けられないのではないかと不安」が14.5%から19.2%と4.7ポイント増加し、2番目となっている。

また、「特に不安は感じていない」は第1回調査の6.7%から1.6%と5.1ポイント減少している。

【図表 157】新型コロナウイルス感染症に感染すること以外に感じている不安
(第1回調査との比較)

